

水槽内で観察された *Harpagifer antarcticus*
(ナンキョクカジカ亜目, ハルパギフェル科) の営巣行動

岩見哲夫¹・三森亮介²・齋當史恵²・多田諭²・池田正人²

¹ 東京家政学院大学

² 葛西臨海水族園

**Nesting behavior of *Harpagifer antarcticus* (Notothenioidei,
Harpagiferidae) reared in an aquarium**

Tetsuo IWAMI¹, Ryouzuke MIMORI², Fumie SAITO², Satoshi TADA², Masato IKEDA²

¹ Tokyo Kasei Gakuin University

² Tokyo Sea Life Park

Observations of the nesting behaviour, guarding of nest and larvae-carrying, of *Harpagifer antarcticus* reared in Tokyo Sea Life Park were conducted. Spawning took place in February 28, 2010 and the adhesive eggs were laid in a single layered disc attached to a stone. Only female guarded the nest throughout the four month incubation period. Hatching of larvae were confirmed in June 8, 2010. During the nest guarding, a maximum of 57 larvae-carrying behaviours per day was observed and its frequency was variable in each time zone. The nest guarding female usually reacted to the approach of *Lepidonotothen nudifrons* and evicted it from the periphery of the nest. Also when a sea star *Odontaster validus* reached to the nest, the female carried in its mouth further from the nest.

葛西臨海水族園で展示飼育されている *Harpagifer antarcticus* の営巣行動について、卵の保護と仔魚運搬行動に注目して観察・解析を行った。観察は水量 1m³ の展示水槽内でコモンサラサウオ *Lepidonotothen nudifrons*, *Odontaster validus*, *Sterechinus neumayeri* と共に飼育されている個体について、目視およびビデオ撮影された映像に基づいて行った。産卵は、2010年2月28日に行われ、その後の卵の保護は目視による観察に基づく限り、雌個体によるのみ行われた。雌個体は、産卵床となった石の上で連続的に円を描くように移動し、卵付着部分を腹鰭や臀鰭で触れて清掃するような行動を続けた。2010年6月8日に初めて仔魚の浮出が確認され、その後も孵化が続いたので、6月16日から24時間連続ビデオ撮影によって行動を記録した。6月29日に巣を30分以上も離れる行動が確認された。その後、巣内での定常的な行動も見られなくなったので、6月30日をもって孵化終了と判断した。雌が巣を出て行う仔魚運搬行動は6月19日から23日の5日間に高頻度で見られ、6月23日には合計57回の行動が観察された。仔魚運搬行動の時刻帯毎の頻度については、最大で5倍近い差が認められるものの、特定の時刻帯に集中するという明瞭な傾向は確認できなかった。卵保護の期間中、卵保護をしている雌が接近するコモンサラサウオを攻撃する行動が確認されたが、浮遊する仔魚を捕食するコモンサラサウオへの攻撃は認められなかった。また、仔魚運搬行動が高頻度で見られた期間、雌の *O. validus* に対する排除行動も高頻度で観察された。